

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備	施策	① 国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化
			施策の小項目名	○空港・港湾機能の強化
主な取組	那覇空港の滑走路増設整備			
対応する主な課題	①アジアの経済成長と活力を取り込む橋頭堡を築き、我が国及びアジア・太平洋地域の発展と連動した21世紀の「万国津梁」を実現するため、交流の玄関口となる空港・港湾の機能強化、陸上交通のアクセス性、周遊性の向上など国際的な交通・物流の拠点となるインフラの重点的な整備が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄の地域経済を支える観光需要に対応するため、滑走路処理能力を年間13.9万回から24万回に増大させる滑走路増設事業を促進し、那覇空港の機能強化を図る。						
実施主体		国				
担当部課【連絡先】		企画部交通政策課 【098-866-2045】				
		滑走路増設整備(2,700m)				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 那覇空港滑走路増設事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： -	
国直轄	その他	-	-	-	-	-	-	国直轄	OR3年度： -	

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：	
									OR3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名					R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
滑走路増設整備 (2,700m)					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度				0	順調	<p>活動概要</p> <p>那覇空港滑走路増設事業は、計画どおりに進捗し、令和2年3月26日に供用開始されたが、滑走路増設事業の周辺環境整備に係る諸課題の整理等について、国や那覇市と連携して取り組んだ。</p>
	—	—	—	—	滑走路増設整備の推進	100.0%				
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	0	順調	<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>那覇空港滑走路増設事業は、計画どおりに進捗し、令和2年3月26日に供用開始されたため、進捗状況は「順調」とした。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	0	順調	
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

○外部環境の変化

・滑走路増設事業の周辺環境整備に係る諸課題に関連して、那覇空港周辺海域の漁業権者の動向などを把握する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・滑走路増設事業の周辺環境整備に係る諸課題について、那覇市とより密に連携して取り組む必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・滑走路増設事業の周辺環境整備に係る諸課題について、那覇市とより密に連携して対応できるように、情報共有体制の構築を推進する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備	施策	① 国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化
			施策の小項目名	○空港・港湾機能の強化
主な取組	那覇空港旅客ターミナルビルの整備			
対応する主な課題	①アジアの経済成長と活力を取り込む橋頭堡を築き、我が国及びアジア・太平洋地域の発展と連動した21世紀の「万国津梁」を実現するため、交流の玄関口となる空港・港湾の機能強化、陸上交通のアクセス性、周遊性の向上など国際的な交通・物流の拠点となるインフラの重点的な整備が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄の地域経済を支える観光需要に対応し離島住民を含む県民活動の要となる那覇空港の利便性向上に向け、国際線および国内線の旅客ターミナルを連結する施設を整備し、旅客ターミナル施設を一体化する。また、近年の国際線利用客の急増に対応すべく、C I Qおよび周辺施設の増築を行う。						
実施主体	那覇空港、ビルディング(株)、国	ターミナル連結整備				
担当部課【連絡先】	企画部交通政策課 【098-866-2045】					
		C I Q施設増築				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		取組内容					R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度	OR3年度
際内連結ターミナル施設整備									OR2年度：－	OR3年度：－
	その他	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	－	－			
C I Q施設増築									OR2年度：C I Q施設および関連ターミナル施設増築について、整備が円滑に進捗するよう関係者と調整するなど、協力して取り組んだ。	OR3年度：－
	その他				国・那覇空港ビルディング(株)	－	－			

様式1(主な取組)

活動指標名	ターミナル連結整備				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	100.0%	0	順調	<p>際内連結ターミナル施設の整備が円滑に進捗するよう関係者と協力して取り組み、平成31年3月に供用を開始した。</p> <p>また、C I Q施設の増築および周辺関連施設の整備についても、円滑に進捗するよう関係者と協力して取り組み、令和2年11月に完成した。</p>
活動指標名	C I Q施設増築				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—		100.0%			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>際内連結ターミナルの供用開始により、国際線・国内線の施設が連結されたとともに、これまで専用バス移動が必要だった貨物地区の暫定ターミナルからLCC便が移転し、国際線・国内線・LCCを含めた全ての定期便が一体化したターミナル施設を発着することとなり、利便性が飛躍的に向上した。</p> <p>また、C I Q施設の増築および関連施設の整備も順調に進捗し、令和2年11月に完成した。</p>
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—					
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年12月に着工した国際線C I Q施設の増築および周辺関連施設の工事が順調に進捗し、令和2年夏季に一部施設が供用開始できるよう、事業主体の国や那覇空港ビルディング㈱と調整していく。 国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」について、増大する航空需要を的確に予測しターミナル施設の拡張等を盛り込むなど、民航エリアの拡張に向けた計画の改定に係る協議を、引き続き国と行っていく。 						<ul style="list-style-type: none"> 国際線C I Q施設の増築および周辺施設の工事は順調に進捗し、計画どおり令和2年11月に完成した。 国が策定する計画とは別に、地元県として考える将来像について調査検討するとともに、まずは現行計画の範囲内における運用改善策として、地上業務支援車両置場・構内道路の再編、駐車場の整備計画や二次交通の利活用等について、国や関係事業者を含めた会議を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 際内連結ターミナル施設を先行供用させたことにより、国際線チェックインカウンターは従来の3倍の60ブースに増強したうえ、インラインスクリーニング化を図ったことで混雑が大幅に解消された。
・ 令和2年11月にC I Q増設施設及び周辺施設が完成し、国際線の旅客の受入体制が強化された。

○外部環境の変化

・ 滑走路1本としての処理能力の限界近くで発着回数が頭打ちとなっているが、令和2年3月に那覇空港第2滑走路が供用開始したことにより、発着回数の増加が見込める。
・ これまで、アジアからの旅客およびLCC利用客が急激に増加しており、国内線・国際線ともに路線数・便数の増加に伴い、更なる旅客数の増加が見込まれていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、航空需要は大幅に減少している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 那覇空港のターミナル等については、国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」に基づき事業を展開していくこととなるが、第2滑走路の供用に伴う発着回数の増加や駐機場の不足に加え、新型コロナウイルス感染症の収束後、将来的に予測を上回る航空需要の拡大により民航エリアの急激な狭隘化が見込まれることから、基本計画の見直しについて、引き続き国と協議を行っていく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」について、将来的に増大する航空需要を的確に予測しターミナル施設の拡張等を盛り込むなど、民航エリアの拡張に向けた計画の改定に係る協議を、引き続き国と行っていく。